

## 5-1 受身と文型の関係

### — 受身からもとの文型がわかるようにする

#### 1 なぜ I was stolen my bag は間違いか？

まず、次のAとBの対話の空所に何が入るか考えてみてください。

A: Why are you shopping for a bicycle? Didn't you buy one just last month?

B: Yes, but unfortunately ( ) last week.

1. I was stolen it    2. it was robbed  
3. it was stolen    4. someone was robbed

A「なぜ自転車を買いに来てるの？先月買ったばかりじゃないの？」

B「うん、でもあいにく先週盗まれちゃったんだ」

正解は3. it was stolen (it = 「先月買った私の自転車」) ですが、1の I was stolen it と思われた方はいらっしゃらないでしょうか？

「私はそれ (= 自転車) を盗まれた」と考えれば、「私 = I、盗まれた = 受身 → be 動詞 + 過去分詞」と考え、I was stolen. そして、「何を」盗まれたか？ = it という順番で考えると、I was stolen it. が正しように思われるかもしれませんが、これは英語としては全く成立しない構造です。受身文が正しいかどうかは能動態の文に戻してみればわかりますが、そのためには、まず受動態と能動態の関係を正確に理解しておくことが重要です。日本人学習者が受身表現でしばしばミスをおかす原因は、実はこの受動態と能動態の関係がわかっていないことにあるようです。

#### 2 もとの文に目的語がなければ受身にはできない

S (主語) + V (動詞) の「第1文型」や S (主語) + V (動詞) + C (補語) の「第2文型」には受身文は存在しません。これは当たり前のことですが、なぜでしょうか？ 受身文の主語に当たるのは、もとの能

動態の文では目的語です。つまり、受身となるもとの文 (= 能動態の文) に目的語が存在することが前提となります。目的語 (O) をとらない文型である SV や SVC はそもそも受動態をつくれないうです。

① Tom loves Mary.  
S    V    O

→ Mary is loved by Tom. (○) ☞ 受身可  
S (←O)

② Everybody laughed at Jack.  
S                    V    O

→ Jack was laughed at by everybody. (○) ☞ 受身可

laugh は自動詞で目的語をとることはできませんが、前置詞 at を伴い、laugh at で1つの句動詞 (p.026, 163) とすることで、me を目的語と考えることができるので受身文にすることができます。

③ Tom became a famous writer.  
S                    V                    C

→ A famous writer was become by Tom. (×) ☞ 受身不可

a famous writer は目的語ではなく補語です。受身文にすることはできません。もう1つ、受身文と能動態の文 (以下、能動文) では、「受身文の S = 能動文の O」の関係があることにも注意しましょう。

上の①②でも、それぞれ受身文の主語である Mary と Jack はもとの能動文では目的語です。もともと能動態の目的語を受身文での主語にするわけですから当然の原則なのですが、それでも実際にこれを意識していないことによる間違いが多々見られます。(なお、受身文もとの能動文の意味は主語と目的語が入れ替わっただけで、あとは全く同じ、というわけではありません。このことについては、拙著『英文法の真相75』を参照してください)

#### 3 各文型とその受身文の構造上の特徴

(1) 第3文型 (SVO) の受身の特徴

☞ 過去分詞の後ろに名詞や形容詞が続くことはない

- He finished the work. → The work was finished by him.  
S V O S(←O)

「その作品は彼が仕上げた」

(2) 第4文型 (SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>) の受身文の特徴

☞ 過去分詞の後ろには、必ず名詞が続く

- She gave her sister a nice bracelet.  
S V O<sub>1</sub> O<sub>2</sub>

→ Her sister was given a nice bracelet by her.  
S(←O<sub>1</sub>) O(←O<sub>2</sub>)

「彼女の妹は(彼女に)素敵なブレスレットをもらった」

第4文型 (SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>) は2つの目的語をとることができることから、受身文にすることで目的語(通常はO<sub>1</sub>)を前に出しても、もう1つの目的語(O<sub>2</sub>)が残ります。(p.159で詳しく述べます)

(3) 第5文型 (SVOC) の受身文 ☞ 過去分詞の後ろには、必ず補語

(C : 名詞/形容詞/to do/doing/done) が続く

- He made me aware of its importance.  
S V O C

→ I was made aware of its importance by him.  
S(←O) C

「私は彼にその重要性に気づかされた」

逆に言えば、(be動詞 + 過去分詞)の後ろに、形容詞や分詞(doing/done)が続いていたなら、まずSVOCの受身ではないかと考える視点が必要です。(SVOCの受身についてはp.160でさらに扱います)

**4 受身文からもとの文(能動態)へ**

以上のことから、受身文ともとの文(能動態)との相関関係は次のようになります。

- ① 名詞 + be動詞 + 過去分詞 (+ M) なら ☞ SVO (+ M) の受身
- ② 名詞 + be動詞 + 過去分詞 + 名詞/形容詞/to do/分詞なら ☞ SVOC の受身

③ 名詞 + be動詞 + 過去分詞 + 名詞なら

☞ SVOO または SVOC の受身

※ 動詞の意味・語法、名詞と名詞の関係から判別する (→p.158)

これらの受身から能動文への変換は、言ってみれば、数学に出てくる「式の変形」のようなもので、丸暗記するのではなく、自分できちんと変形ができるように(左辺から右辺、右辺から左辺と自由自在に)しておくことが、読む場合のみならず、書く場合でも重要です。

さて、最初の問題文であげた I was stolen it. がなぜ間違いか、もうおわかりいただけたのではないかと思います。仮に I was stolen it. が正しい文とすると、能動態はどうなるでしょうか? まず、受身文の主語は I なので能動態では目的語。また、was stolen it のように、(be動詞 + 過去分詞)の後ろに代名詞 it が来ていることから、能動態は SVOO もしくは SVOC のいずれかにならなくてはなりません。仮に by 以下(ここでは省略されている)を someone として能動態をつくると、Someone stole me it. (×) という形になりますが、steal は SVOO と SVOC のいずれの文型もとることはできません。

ちなみに、steal と rob の違いを再確認しておきます (p.082も参照)。

- steal : ...をこっそり盗む ☞ 目的語は「盗むもの」
- rob : ... (相手) から～を強奪する ☞ 目的語は「盗む相手」

動詞 rob は (rob X of Y) で「XからYを奪う」というパターンをとります。したがって、その受身 (X is robbed of Y) では、「能動文の目的語 = 受身文の主語」という原則から、Xの位置に来るのは、「盗まれるもの」ではなく「相手」になります。選択肢2. it was robbed (it = 自転車、つまり盗まれたもの) が誤りであることもおわかりいただけると思います。

**まとめ**

- 受身文をつくれるのは、もとの文(能動態)で目的語をとれる文型のみ
- ☞ 受身文から、もとの文(能動文)の構造がわかるように!